

ガーナでそろばんプロジェクト 127 号 (2025 年 10 月 30 日)

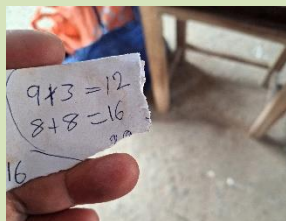
★★ 指導者としての私の役割、私が務める事 ★★

今月、7か月ぶりにクラウディの学校にそろばんの指導に行きました。3月を最後に行っていない中、ある一つの不安がありました。そろばんの授業を熱心に受けていた生徒の所在でした。その生徒は、私の中で中学3年生という認識があったので、卒業をしてしまったのではないかとこれからもっと楽しくなるころだったのに残念だったな、という思いでした。

しかし、授業が始まるとその気になっていた生徒数名が現れたので安心しました。教頭先生がそろばんの指導を熱心にサポートしてくれ、生徒への声かけもしてくれます。そうした中、最初に教室に入ってきた女子生徒は、皆んな後ろの席に着き、誰一人として前方に座らないのですが、それに対しても「前に座るように」と声かけするも、女子生徒は移動しないでいるのがとても残念に思いました。中3から中1の合同授業は、アフィフエで授業としてそろばんの指導をしていた時と同じように、心ここにあらずという生徒も数人見かけます。休み時間に自宅に帰り、家事労働をしてきて疲れているという事もあるでしょう、そうした心ここにあらず状態の生徒をいかに楽しく授業を受けさせるかも私次第なのかもしれません。前年度、授業を熱心に受けていた生徒はめきめきとそろばんの計算を理解して五珠から取って繰り上がる計算が出来るようになってきています。これからどんどん楽しくなってくることでしょう。日を空けずして指導に行けるよう努めていきたいです。



一方、アフィフエでは、今月も心穏やかになれない指導のそろばん教室となっていました。九九の暗記どころか、Make10, make6を全く理解しないまま中学に進学している生徒、自分は出来る生徒だと勘違いしている生徒、全てにおいて優しく指導できず、感情的に怒ってばかりいました。そして追い打ちをかけたのがカンニングのメモ紙でした。そろばん教室に来ているのに、そろばんを使わず事前に準備していたと思われる紙を見ている生徒、そのメモ紙をびりびりに私は破きました。「ズルをするならそろばん教室に来るな。二度と来るな」私に怒鳴られた生徒は、目にいっぱい涙を溜めていました。彼にとって私は「図書館にたくさん本を持って来てくれ、授業も楽しい優しいトシコ、トシコ大好き」だったのです。しかし、そんな思いを持っていた私に激怒され、ガーナの体罰ケーンと呼ばれる棒を鞭の代わりに彼に与えなくても、私の激怒は相当怖かったと思います。私も心身ともに疲れしました。今月の指導は、指導者として大人として、人として言うてはならない言葉が何度もこれまでにしかかかって、最後の理性でその言葉は絶対に言うてはならないとストップしていました。言うてしまったら自分がやっている事を全て否定してしまう事に繋がってしまうのです。そろばんを子どもたちに教えようと思ったきっかけを与えてくれたのも、その当時、棒を書いて計算していた中学生の言葉「トシコ、ぼく十がわかったんだ、十がわかったんだよ」という嬉しそうな声と目の輝きでした。十が分かる喜びがあったから今に至るのです。その喜びに気づかせる努力をするのは他ならない私なのです。



報告 TOSHIKO

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様